

2020.02.14 『埼玉新聞』 歴史特別授業

(13)

地域

2020年(令和2年)2月14日(金曜日)

埼玉新聞

最新の学説交え 歴史を学び直す

杉戸・昌平中で特別授業

杉戸町下野の昌平中学・高等学校(城川雅士校長)で、高校の先生と歴史を学び直す特別授業が行われ、地域住民や生徒ら約40人が参加した。地元のまちおこしボランティア団体「すまえるプロジェクト」(茂利浩幸代表)主催。同校社会科学部の堀越直樹さん(42)が講師を務め、2部構成で進められた。

1部の日本史では、新史料の発見や歴史解釈の変更により、通説が見直されている10項目を紹介。聖徳太子や源頼朝の肖像画の信憑性、語呂合わせで有名な894年の遣唐

使廃止は「停止」、織田信長や坂本龍馬の功績の見直しなど最新の学説を交えながら、変わりつつある日本史教科書の今昔に触れた。

2部の西洋美術史では、古代ギリシアからルネサンス、20世紀のヨーロッパまでの名画や彫刻、建築物を大型スクリーンに映し出し、神と人間、戦争など各作品に込められたメッセージを紹介した。「一枚の絵を味わうには、その時代背景や思想を知ることが必要」と堀越さん。

日本史は好きではなかったという同町の小林千恵子さん

(82)は「堀越先生みたいな先生に出会ってれば、もっと興味を持てたのかも。歴史を学ぶ大切さを教わりました」と感想を語った。文化史に興味を持って参加した同校1年の栗田真帆さん(15)は「文化とは芸術だけでなく、人類が育んできた全てが対象と理解した。もっと教養を高めていきたい」と話していた。(辻良昭)



史料を映し出し「歴史とは何かを問い掛けた講師の堀越直樹さん」杉戸町下野の昌平中学・高等学校

